

特報コラム/血糖値安定がますます着実!



糖尿病の治療法はくんぐん  
進歩していますと辛先生

# 負担少なく効果優秀! 合併症を遠ざける 糖尿病の最新治療

しんクリニック院長 日本糖尿病学会認定専門医・医学博士

辛 浩基

## 五分ごと・二四時間の 血糖値グラフを作成

末期に至れば恐ろしい糖尿病の合併症ですが、それを回避するための治療が、現在くんぐん進歩していることも事実です。

日常の血糖コントロールを、手軽かつ正確に行うための新たな技術としては、二四時間血糖モニタリングがあげられます。

これは体に装着したセンサーで五分ごとに血糖値を測定し、一日二四時間の血糖値をグラフ化するもの。最適な治療方針を決めるデータともなります。

また今後は、血液を採取せずに血糖値測定することも可能になると思われますが、実際に注目すべき発表が最近ありました。皮膚から発する蛍光の値(皮

膚AF値)が、ヘモグロビンA<sub>1c</sub>の変動を反映しているというのです。

糖尿病性網膜症や腎症の重症度との関連も確認されており、血糖コントロール指導への活用が期待されます。

## 低血糖を起こしにくい 画期的な薬も登場

糖尿病の治療薬についていうと、現在高い評価を得ているのがDPP-4阻害薬です。

まず、血糖値を下げるホルモンであるインスリンは、インクレチンという物質によって、すい臓からの分泌が促されます。

インクレチンはDPP-4という酵素によって分解されるのですが、この働きを抑制するのがDPP-4阻害薬です。

また、このインクレチンは食後に血糖値が高くなったときにしか作用しません。そのため、DPP-4阻害薬は低血糖の副作用も起こりにくいといえます。

## 朝一回の注射でいい 持効型インスリン

薬の服用だけでは血糖値が下がりにくい方の場合、インスリン注射を併用して行うBOT療法も成果を上げています。

用いられているのは持効型のインスリンで、これは朝一回注射するだけで、二四時間効果が持続。当然、患者さんの身体的負担は大きく軽減されます。

また、インスリンを分泌するすい臓に休息を与えることで、その機能回復に役立つというメリットもあるのです。